

妻の本音

「私の主人について」 西山 美佐子
私の主人は（主人なんて言った事なくて普段は「お父さん」です）外の顔と内の顔の違いはありません…と言いたいところですが、実は外の人から何か頼まれると、イヤと言えない性格で（半分好きでする事です）何でもすぐ引き受けちゃいます。…が、私が頼み事をしてなかなかやってくれません。まあ、とにかく忙しい人で、日曜日はゴルフかミニバスケットのコーチとしてどこかへ出かけて行きます。「亭主丈夫で留守がいい」で私としては楽なところもありますが、今年は特に仕事を終えてからの中央会の集まりが多く、少々体の具合が気になります。いつまでも若くないですよ。体だけは大切にしてほしいと思っているこの頃です。



▲新婚旅行の写真

聞いてごしない Part 8

「婿どの」

最近、結婚で何だろうと考えることがよくある。結婚産業は、結婚というセレモニーを、これでもか、これでもかと派手なイベントに仕立てることに余念がない。1993年度に結婚したカップルは792,300組だといふ。しかしその裏で、罵詈雑言のあげく疲れ果てて離婚したであろうカップルは約170,000組あるというから驚く。「中には、驚くような美人妻も居たらうに、勿体無い」なんて私は思っているのではない。大部分の離婚は、日本の長い、男社会の歴史がもつ矛盾に対し、女性が勇気をもってNO!と言いつつ結果であると思う。今や男社会の中で通用していた「旦那様」、「亭主関白」などという言葉は、死語となりつつある。

でも、別に驚いたり、悲観したりすることはない。それは至極当たり前のことなのである。自分の胸に手を当てて、自分の結婚以後の言動を素直に振り返ってみたらいい。大抵の男は、自分の身勝手さにスグ気づくだろう。「自分は男だ」といって全て言い訳にしてきたことを。「それは女のすることだ」、「男のすることに口だしするな」、「女のくせに」、「仕事だから」等々といった男にとって都合のいい言葉を振り回し、自分を正当化していただけないのだ。

離婚の中で「特に憐れみを誘う」のは、婿に入ったのに嫁或いは舅、姑に「帰ってくれ」と言われるケースであろう。跡取りのない家に跡取りを「創出」したあげく、お祝い箱になる哀れな男のことである。この間なんか、20万円のアパートに入るための資金をもらって、自分名義の土地建物を嫁にやることに同意した哀れな男の物語を聞いた。全くもってバカヤローである。相手の女性に理由を尋ねたら、「他に好きな男が出来たけん」とあっけらかんとしたもんだ。また、世間では、ともすれば「婿」と「養子」が同意語として使用されているところから、婿に入った男が舅の全財産を相続しようと当て込んでいたのに、自分は「単なる婿」であり相続権などなかったという話とか、自分に何の裏付けもないまま、婿が重宝されるという最近の結婚事情を固く信じ、「結婚するまでの扱ひ」に気を良くし、跡取りを作った途端追い出されたケース等々、男の悲劇が後を絶たない。

明道校区に住まいする「婿の鏡」と称賛されているO氏の爪の垢でも煎じて飲めばいい。

(文・てなぐさみ)

11月例会案内
日時 11月18日(金)
場所 サンシャイン平安閣
講師 山陰酸素工業(株) 社長 並河 勉 氏
演題 「私の興味—中東地域」
担当 中海圏開発委員会
※出欠の有無を11月14日までに返信ハガキにてご回答下さい。

11月役員会報告
11月定例役員会が11月1日(火)、米子食品会館に於て開催された。当日の主な議題は次の通り。
(1) 12月例会開催の件
日時 12月15日(木) 18:30~
場所 ホテルわこう
内容 忘年例会
担当 フレッシュ委員会
(2) 県青中経営研修会の件
日時 11月29日(火) 15:00~
場所 ホテルサンルート米子
(3) 県青中国内研修参加の件
(4) その他



編集後記
「アジアの調和」のテーマのもと、広島アジア競技大会も、多くの話題を提供して閉幕した。とりわけ、中国の圧倒的な強さに閉口したが、期間中の地下核実験には驚愕した。
さて、我ら中央会も今後取り組むべき課題が山積みされているようだが、中海圏の経済、文化、福祉等々「調和」のある地域ビジョン創りが期待される。

Handsome

発行人 鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 藤居 忠弘 編集責任者 小原 得雄 印刷所 東京印刷機



藤居忠弘会長

中長期ビジョン検討委員会結成

第20代藤居忠弘会長の下、今後の西部青年中央会の進むべき道を模索するため、特別委員会として「中長期ビジョン検討委員会」が結成された。藤居会長にその「結成趣旨」について語って頂いた。

わが西部青年中央会は、昭和50年の結成以来、諸先輩の築かれた中央会精神を引継ぎ活動を続け、結成20周年を迎えることができました。しかしこの間、当然ながら世の中の変遷、世代交代に伴う会員意識の変化等もあり、結成時と比べて会の活動も大きく変わってきました。こうしたことから、この20周年を契機に、今後の中央会活動、中央会のあり方等を新たに考えてみる必要があるのではないか、それには20才となった今が最も適した時期ではないだろうかと思うに至りました。

前年度の高田会長の下では、20周年記念事業の開催により過去の活動の歴史を総括し、中央会の存在、歴史を地域社会にPRしました。

今年度は、20才となった西部青年中央会が、さらに大きく飛躍し、「新たな歴史の糸」を紡いでいくためにはどうしたらよいかを、会員ひとりひとりが真剣に考え、将来ビジョンを語り合い、それを検討、研究していくことが必要であると思います。

また同時にそうすることが、20代会長である私の責務であると考えています。

そのため、特別委員会である「中長期ビジョン検討委員会」を編成し、その委員会を中心に「これからの中央会」について検討、研究を進めて頂き、会員全員に問題意識をもって頂きたいと願っています。その作業が、今後の中央会の進むべき道を示唆してくれると固く確信しています。

中長期ビジョン検討委員会報告(第1回)

10月19日米子食品会館に於いて、藤居会長、小原担当副会長をはじめ西部青年中央会執行部の四役を招いて第1回中長期ビジョン検討委員会が開催された。まず会長より特別委員会を編成した趣旨説明があり、この委員会を中心に「これからの中央会」について検討、研究し、会員全員が問題意識を持ち、今後の中央会の進むべき道を模索して欲しいとの確信表明があった。続いて、担当副会長より、活動内容(案)、平成7年3月のパネルディスカッションの方法・運営等説明の後、委員会メンバーの一人一人が活動の在り方を話し合った。次の委員会にて明確な方針・運営方法を決定する事で第1回の委員会を閉会した。

尚、委員会メンバー並びに委員会運営委員会は次の通りです。

会長 藤居忠弘、 担当副会長 小原得雄
委員長 柴谷政司(中海圏開発)、 副委員長 門脇直己(観光流通)
会員 足立 聡(政治行政)、 小林慎一(カルチャー)
小倉雅司(金融税務)、 能登正明(広報)
里道義郎(フレッシュ)、 由島康平(労務)
田中康裕(地域交流)、 野嶋 功(総務)



— 20周年に寄せて —



小林 千寿氏

今回は、西部青年中央会発足して1年目に入会された小林会員にお願いしました。入会当時の思い出等について語って頂きました。



(入会当時)

昭和51年9月、当時都会での生活に見切りをつけ米子に帰り、現在の会社に就職して間もなしの頃でした。今でもなつかしく思い出されますが、その当時、私は製品の出荷係で、その日も倉庫で荷造りに励んでいて、入り口の方から足音がするので振り返って見ると、そこには幼い頃より親交のあった故中村純久氏が立っておられ、一言「今晚、良かったら一杯つきあえや。家に迎えに行くけん、それとな、今日はハイカラな店に行くけんビシッとスーツをきめてこいよ」との事。そして連れて行かれた所が、ホテルわこうの会議室。扉を開くと見たこともない年配の方がずらりと着席しておられ視線が皆、こちらの方を向いています。弱冠25才の私には、皆さんが、全部おじさんに見えたのですが、その時はまだ何の事かさっぱりわかりません。そうしたら、中村氏曰く、「これはな、青年中央会という会だな、お前も今日から入会する事になったけん、

まあ前に出て一言挨拶してこいや。」という様な次第で、私の青年中央会員としての第一歩が始まったわけでありませう。会の設立後1年間程経過はしていましたが、その頃は、まだまだ会員相互の親睦が一番だ、という事で、最低でも月に2回は朝日町の洗礼を受ける事になったのであります。その時以来ずっと可愛がっていただき又、しごいていただいた先輩諸氏の殆どが今では会を卒業され、現在では県西部の経済界を担う重鎮になっておられる姿を見、一方では毎年入会されてくる清新澆刺たる若手の方々と一緒にいると、青年中央会が歩んできた20年間の重みをつくづく感じる今日この頃であります。出合う人生皆我が師と、亡くなられた中村実前中央会会長が言っておられた様に、皆様が数多くの出会いの中で学ばれ、自己の研鑽に努められるこの会が増々発展される事を祈ります。

10月例会報告

10月17日(月) 於：サンシャイン平安閣

このたびは、境港市長・黒見哲夫氏をお迎えし、「鳥取県西部における境港市の役割と今後の課題」をテーマに講演を聞いた。

講演では、21世紀に向けての港湾計画を明示し、貿易港としての将来を目指していることを話された。そのための布石として吉林省等の対岸交流、輸入促進地域(FAZ)の指定問題、ジャパンエキスポの開催、

拠点都市構想指定問題等の取り組みについて、詳細に説明された。

なかでも注意を引いたのは、FAZの指定問題では新潟と並び境港市が大きなポテンシャルを持っていることを、関西経済界や中国等が注目しているとのことだった。

中海圏開発委員会等のテーマにも重なり、講演後にも活発につっこんだ質問が出ていた。



秋のレクリエーション大会

10月23日(日) 日野郡ふるさと日南邑にて恒例のレクリエーションが会員家族100名余集合しゲーム、バーベキュー大会等盛大に行われた。前日まで3日間降り続いた雨も嘘の様に晴れ上がり会員の普段の行いの良さを物語るかの様だった。



第3回 OB交流会 盛大に開催さる!



10月8日(土) 18:30~公共マリーナにおいて出席人員OB27名、現役29名、事務局1名で、OBとの交流会が盛大に行われた。

藤居会長の挨拶~亀井OBの乾杯の後、海の幸いっぱいバーベキューをたっぷり堪能した。年一度のOBの貴重な話を拝聴し、余興は見るもみごとなマジック江藤により手品~最後に角田県会長の一本締めにてにぎやかなうちに御開きとなった。



青経連合同講演会開催

平成6年度青経連合同講演会が、10月26日、ホテルサンルート米子に於いて、約160名の参加で開催された。

講師に(株)総合行政研究所所長の嶋聰史氏を迎え、「都市連携による新経済構造シュミレーション」と題し、拠点都市としての課題等について講演をいただいた。米子市の昼夜人口比は110.2% (全国664都市のうち38位)と高く、その点で米子市・境港市を中心とする中海圏は拠点性を持ちあわせており、拠点都市法を活用しやすい地域であることを挙げ、五全総から世界に情報発信できるジュネーブのような「小さな世界都市」の方向性をつくり、21世紀の新しい地域を築くべきであると示唆された。



さわやかさん こんにちは ~ (株)山陰冷食 谷口会員推薦 ~

今月は(株)山陰冷食入社一年目のピカピカOLペアの登場です。

左: 中村 文子 さん
S46.11.3生 22才 (O型)



右: 古津 敦子 さん
S46.10.11生 23才 (A型)

【趣味】 絵画、音楽鑑賞、お菓子づくり。
【休日】 趣味を楽しみます。
【彼氏は】 好きな人はいますよ。
【好きなオジサン】 お父さんみたいな人かな。
【お酒は】 カクテルが好きで友達とたまに飲みに行く。
【好きな食べ物】 モスパイシーチリドッグ。
【結婚観】 自分にピッタリの時期にしたいな。
【最近一番楽しかった事】 いまの車に出会えた事。
【谷口会員に一言】 営業推進課でいつもかわいがってくれています。課長の人柄ですって? そうですね、マイペースでちょっとおちゃめな我ら推進課のアイドルですわね。

【趣味】 お菓子づくり、音楽鑑賞、水泳。
【休日】 友達と出かける。
【彼氏は】 いません...けれど好きな人はいます。
【好きなオジサン】 自分の意見をしっかり持っているが押しつけがましくない人。

【お酒は】 ぜんぜん飲みません。
(これから谷口さんに教わりなさい!)

【好きな食べ物】 スパゲティー
【結婚観】 まだ早いかな。
【最近一番楽しかった事】 学生時代の仲間に久しぶりに会えた事。
【谷口会員に一言】 いつも笑顔で楽しそうな口調で話される方。時々行き先不明で困る事もありますが笑って許してしまうようなそんな人です。

(谷口会員から二人に一言) 二人ともミスも無く? 信頼しています。至らぬ上司ですが今後ともよろしく!